


 便利

POST

## ◇私の「カルチャー・いんふお」◇

東田直樹さんをご存じですか。『自閉症の僕が跳びはねる理由』（エスコアール 2007年）の著書があり、TV番組「NHKスペシャル『自閉症の君が教えてくれたこと』（2016年）でも特集された彼は、紙のキーボードを指さし同時に自分の言葉を発し、パソコンで原稿も書いています。自閉症を持った人が文字通りなぞ跳びはねるかを本にし、それはアイルランド在住の作家D.ミッチェルに届き、各国語の翻訳が出るまでになりました。ミッチェルには自閉症の息子がいて、長い間子育てに悩んでいました。東田さんは跳びはねる理由について、「自分に縛られ、他人に縛られ、僕たちは籠の中の鳥のように、ピーピー鳴いてバタバタと跳びはねるしかありません。どこか遠くの青い空の下で、僕は思いっきり羽ばたきたいのです。」と語ります。

9月の後半にオーストラリア・シドニー郊外のST. LUCY'S SCHOOLという、障害を持った子どもたちの学校を訪問しました。仲良しになったのは小学生のSara（仮名）という女の子。事前に、子どもたちにはこちらから触れたりもしないようアドバイスされましたが、彼女は私を見るなり手をつないでくれました。くりくりとウェーブがかかった金髪のにこにこ笑う女の子で、中庭になっている校庭を好きなように手を引いて案内してくれました。中庭に配置されている屋外の舞台や、遊具（音が出たり、回ったり、ブランコのように揺れるもの）、中庭を囲むいくつかの教室も窓から見せてくれました。時々何が言いたげに私に声を発するのですが、理解できませんでした。言葉のやりとりはできませんが、きっとお客さんの私に自分の居場所を案内してくれたのだと解釈しています。シドニーの空は抜けるような青空でした。（AK）

## ◇明治から現代までの『幼児の教育』、全部ダウンロードして読めます！◇

1901（明治34）年の創刊号から第114巻第1号（2014-2015年冬号）まで、すべて手軽にダウンロードしてご覧になれます。

「幼児の教育 TeaPot」で検索してみてください。戦前の保育実践、著名な学者の意見、昔の美しい表紙絵、面白い広告など満載の貴重な保育史料です。海外からも多数のアクセスを頂いています。本誌特集「保育の『根本考察』にチャレンジ！」の中で取り上げているアーカイブズの記事も、どうぞ読んでみてください。きっと新しい発見があります。

## ◇年間購読継続手続きのお願い◇

いつもご愛読くださり、ありがとうございます。

次号春号からの年間購読を引き続きご希望の方は、更新手続きが必要となります。フレibel館のホームページに入り、オンラインショップ「ツバメノオウチ」のパナーをクリック。その後、「定期購読」⇒「幼児の教育」の表紙絵をクリックします。

定期購読のサイクルは冬号で一区切りになります。ご不明の点などございましたら、youji-no-kyouiku@cc.ocha.ac.jp までお問い合わせください。

おかげさまで今年も無事に4号をお届けすることができました。今後ともどうぞお引き立てくださいますようお願い申し上げます。

（編集委員会）